

都道府県名	鹿児島県
地域名	霧島市
研究期間	平成20年～21年度

I 概要

1 研究課題

発達障害等のある幼児を早期に発見し、当該幼児及び保護者に対する早期からの総合的な相談・支援を展開するための体制を構築するとともに、個々への支援を学童期につなぐ方法を明らかにする。

2 研究の概要

- (1) 関係者・機関のネットワークづくり及び行動連携に関する研究
 - ・ 早期総合支援モデル地域協議会の設置と支援体制づくり
- (2) 発達障害のある幼児を早期発見するための実施方法に関する研究
 - ・ チェックリストの先行例研究・試案作成・試行
- (3) 発達障害のある幼児を早期支援するための実施方法に関する研究
 - ・ 専門員による教育相談と巡回相談の実施，支援員による早期支援の実施
- (4) 就学前機関から小学校への円滑な移行方法に関する研究
 - ・ 移行支援計画の策定，校区単位での幼保小特別支援連絡会議の試行

3 研究成果の概要

- (1) 市特別支援教育連携協議会の中に，専門部会として早期総合支援モデル地域協議会を位置付け，保健，福祉部局との実務担当者レベルでの連携を深めた。市全体を見通した支援体制充実のための方向性を見いだすことができた。
- (2) 発達障害のある幼児の実態把握（行動観察）の方法について研究を深めた。記録表等を試作し，小学校の入学説明会時に使用した。その結果を幼稚園，保育所，保護者に情報提供し，就学後の支援に活用できるようにした。
- (3) 発達相談専門員を3名任命し，教育相談や幼保への巡回相談等を実施した。また，市内の3園に特別支援教育支援員をモデル的に配置し，実際の支援を行い，各園における支援体制の整備や支援の充実に寄与することができた。
- (4) 就学前の幼児の実態や支援の方法等をまとめ小学校への移行をスムーズにするために移行支援シートを試作した。本シートの活用を含め，幼保小特別支援連絡会議の在り方を検討し，小学校2校において試行し接続の質を高めた。

Ⅱ 詳細の報告

1 モデル地域の名称

NO	モデル地域名
1	鹿児島県（霧島市）

2 モデル地域内の幼稚園・保育所・学校数及び幼児児童数

(1) 幼稚園・保育所

モデル地域内の 学 校	幼稚園		保育所		合 計	
	園 数	幼児数	か所数	幼児数	園・か所数	幼 児 数
霧 島 市	17	1764	32	2353	49	4117

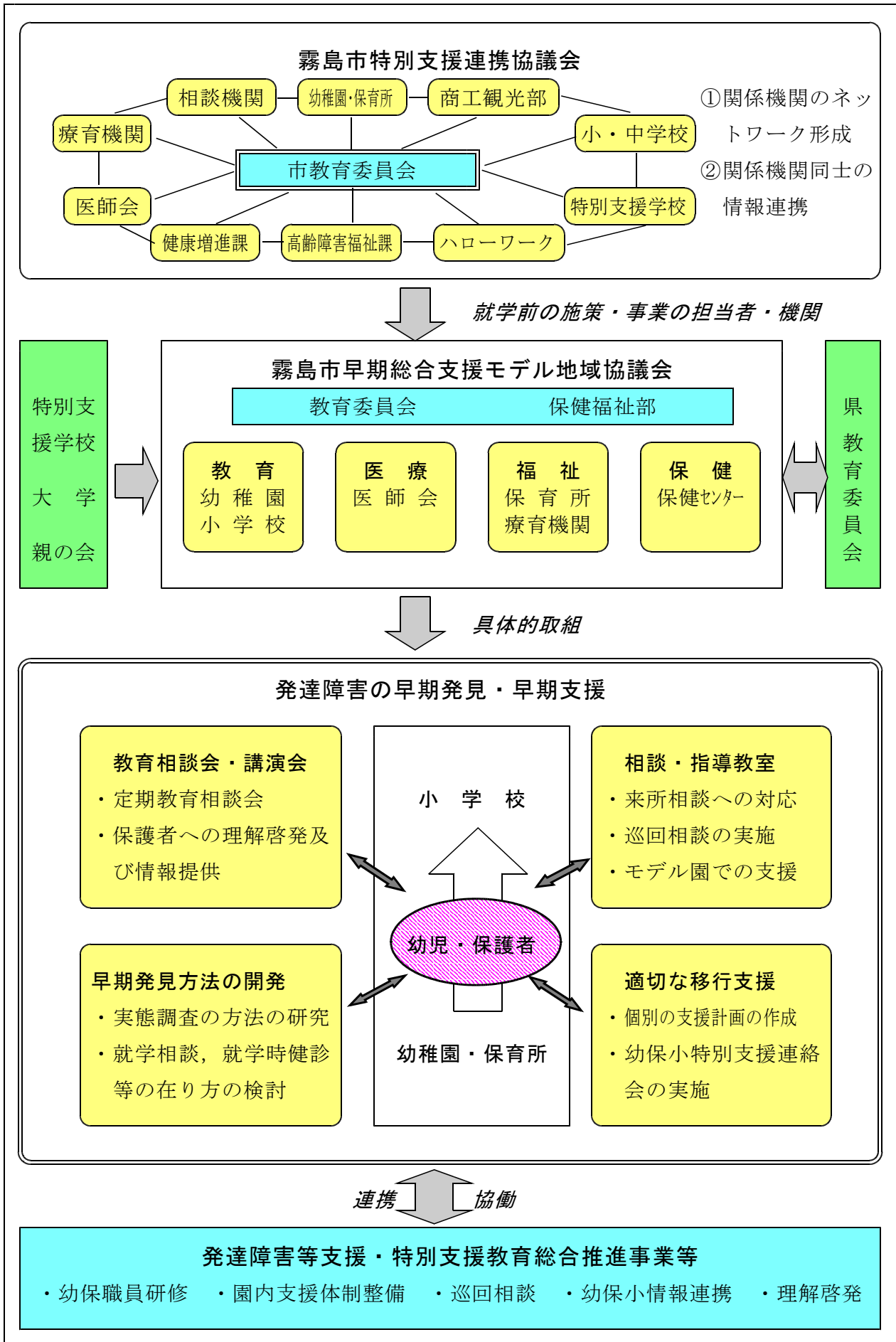
(2) 小学校

モデル地域内の 学 校	小 学 校	
	学校数	児童数
霧 島 市	34	8126

(3) 特別支援学校

モデル地域内の 学 校	特 別 支 援 学 校					
	学 校 数	幼児児童数の内訳		教職員数	コーディネーター数	支援員数
霧 島 市 牧之原養護学校	1	幼児数	0	121	10	1
		児童数	54			
(加治木町) 加治木養護学校	1	幼児数	0	62	9	1
		児童数	24			

3 事業全体の概念図



4 事業の内容

(1) 早期総合支援モデル地域協議会

ア 構成

NO	所属・職名	備考
1	医師会代表 医師	医療機関
2	志学館大学心理相談センター相談員	相談機関
3	志学館大学心理相談センター相談員	〃
4	国分ひまわり園職員	〃
5	竹の子幼稚園愛育センター	学校関係
6	市幼稚園代表	〃
7	市保育園代表	〃
8	市小・中学校代表 教諭	〃
9	加治木養護学校 教諭	〃
10	牧之原養護学校 教諭	〃
11	国分西小学校LD, ADHD通級指導教室 教諭	〃
12	国分公共職業安定所	労働機関
13	市保健福祉部健康増進課	福祉行政
14	市保健福祉部高齢・障害福祉課	〃
15	溝辺総合支所市民福祉課	〃
16	福山総合支所市民福祉課	〃
17	すこやか保健センター	〃
18	市教育委員会指導事務グループ長	教育行政
19	市教育委員会指導主事	〃
20	市教育委員会指導主事	〃

イ 開催回数・検討内容

(ア) 霧島市特別支援連携協議会 年2回開催

(イ) 発達障害早期総合支援モデル地域協議会 . . . 年3回開催

【 霧島市特別支援連携協議会 】

第1回	平成20年10月23日(木) 15:00~16:50	隼人庁舎第2会議室
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・委嘱状交付 ・委員長, 副委員長選出 ・連携協議会の概要説明 ・関係機関の特別支援教育に対する取組についての情報交換 	
第2回	平成21年2月20日(金) 10:00~11:30	隼人庁舎第1会議室
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害早期総合支援モデル事業の進捗状況の報告 ・平成20年度事業報告 ・専門部会の早期発見, 早期支援の取組 ・平成21年度事業計画 	

【 発達障害早期総合支援モデル地域協議会 】

第1回 平成21年1月15日(木) 15:30～17:00 隼人庁舎第2会議室	
検討内容	・委嘱状交付 ・部長, 副部長選出 ・連携協議会専門部会の概要説明 ・発達障害早期総合支援モデル事業の事業説明
第2回 平成21年2月12日(木) 15:30～17:00 隼人庁舎第2会議室	
検討内容	・発達障害早期総合支援モデル事業の進捗状況の説明 ・発達障害の早期発見, 早期支援の関係機関の取組について ・専門部会の早期発見, 早期支援の取組
第3回 平成21年3月11日(水) 15:30～17:00 隼人庁舎第2会議室	
検討内容	・霧島市特別支援連携協議会の事業報告 ・発達障害の早期発見, 早期支援の関係機関の取組について ・平成21年度の専門部会の取組について

ウ 早期総合支援モデル地域協議会における取組の成果と課題

(ア) 成果

- ・それぞれの年齢に応じて関係機関がかかわり, 霧島市内における幼児児童のおおまかな実態把握を行うことができた。
- ・相談機関, 療育機関, 保健福祉各課, 幼稚園, 小学校など関係機関の取組について情報交換を行うことで各機関の早期発見, 早期支援の仕方について理解を深めることができた。

(イ) 課題

- ・幼稚園, 保育所から小学校への移行支援において, 幼児児童が次の段階で連続して適切な支援を受けることができる手立てについて関係機関が意見を出し合い研究を進めていく必要がある。(就学移行支援シートの活用等)
- ・対象幼児児童やその保護者などが, 霧島市内で継続して相談できる相談体制を構築していく必要がある。

(2) 相談・指導教室

【発達相談専門員】

ア 構成

NO	所属・職名	備考
1	始良・伊佐教育事務所特別支援教育アドバイザー	特別支援学校経験者
2	鹿児島心理オフィス	臨床心理士
3	臨床心理士	特別支援学校経験者

イ 巡回相談, 来所相談の概要(箇所数・実施回数・対象者等)

- (ア) 霧島市内の公立, 私立幼稚園, 保育所の49園を対象に実施する。
- (イ) 今年度, 巡回相談を14園に実施する。
- (ウ) 霧島市就学相談会や霧島市教育委員会で就学に関する教育相談を行う。
- (エ) 主に来年度入学予定の年長児を対象に実施する。

ウ 主な実施内容

- (ア) 特別支援教育コーディネーターの指名，園内委員会の設置など，各幼稚園，保育所における特別支援教育の体制整備に関する指導，助言
- (イ) 特別な教育的支援が必要な園児への対応（具体的な支援方法等）についての教師や保育士への指導，助言
- (ウ) 発達障害等のある子どもの保護者に対する，来年度の就学の判断等に関する継続的で適切な助言

エ 成果と課題

(ア) 成果

- ・ 巡回相談（計画訪問）では，特別支援教育コーディネーターの指名，園内委員会の設置など，特別支援教育の体制を整えることの必要性について理解を深めることができた。
- ・ 来所相談では，霧島市障害児就学指導委員会で特別支援学校等への就学が必要な幼児の保護者へ継続的な相談を行うことで就学への理解を深め，安心して就学を迎える状況をつくることができた。

(イ) 課題

- ・ 巡回相談（計画訪問）では，公立の幼稚園，保育所に重点を置き，個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成に結び付けていきたい。
- ・ 来所相談では，幼稚園，保育所と連携を図り，年度の早期から年長児の教育相談を行うことができるよう体制を整えていきたい。
- ・ 対象幼児児童やその保護者などが，霧島市の中で継続して相談できる相談体制を構築していく必要がある。

【特別支援教育支援員の配置】

ア 構成

NO	所属・職名	備考
1	富隈幼稚園	幼稚園教諭経験者
2	陵南幼稚園	幼稚園教諭経験者
3	国分西保育園	保育士経験者

イ 特別支援教育支援員の概要（箇所数・実施回数・対象者など）

- (ア) 霧島市内の公立幼稚園，保育所の3園をモデル園とし特別支援教育支援員を配置する。
- (イ) 公立幼稚園には9月から，公立保育所には11月から配置し年間80日の勤務とする。
- (ウ) 支援を必要とする幼児のいるクラスを担当し支援に当たる。

ウ 主な実施内容

- (ア) 各幼稚園，保育所で行った行動観察を基に，各園の園内委員会において支援が必要な園児について検討する。
- (イ) 食事，衣服の着脱，排せつの補助，教室を飛び出す，読むこと，書くことなどに困難を示す幼児について，実態に応じた支援を行う。

エ 成果と課題

(ア) 成果

特別支援教育支援員は、管理職、他の教諭などと連携を図りながら支援の必要な園児へ支援を行ったり、効果的な支援のあり方について検討したりと積極的に支援に携わることができた。園児は支援員とのかかわりの中で、園での生活がスムーズになり何事にも積極的に取り組めるようになる等の成果がみられた。

(イ) 課題

特別支援学校や発達相談専門員の巡回相談を活用し、支援方法について助言をもらったり、モデル園の各園で指名している特別支援教育コーディネーターと連携を図ったりして、個別の指導計画や個別の支援計画の作成を行う予定である。

(3) 講演会

ア 講演会の概要

発達障害のある幼児児童生徒の支援にかかわる教職員、関係者を対象とした研修会を実施することで、早期からの支援の在り方について基礎的な理解を図ることを目的とする。

イ 実施期日

7月30日と2月10日の年2回実施

ウ 実施内容

(ア) 1回目は、田邊貴仁氏（鹿児島県 そだち支援センター スケッチ センター長）を講師として招聘し、「発達障害のある幼児へのそだち支援」の演題で講演を実施した。

（県内、霧島市合わせて359名の参加）

(イ) 2回目は、里見恵子氏（大阪府立大学 准教授）を講師として招聘し、「幼児期における発達障害のある子どもの支援」の演題で講演を実施した。

（県内、霧島市合わせ276名の参加）

エ 成果と課題

(ア) 成果

療育施設、大学などでの実践を基に、発達障害等のある幼児に対してそれぞれの障害に応じた支援はどうあればいいか具体例を示しながらの講話であり、出席した関係者の好評を得た。

(イ) 課題

霧島市内外の幼稚園、保育所へ十分に広報活動を行い、教諭、保育士のより積極的な参加を呼び掛ける。

(4) 早期発見・早期支援

ア 早期発見

(ア) モデル地域内での具体的な取組

【 夏の入学相談会 】

- ・ 来年度入学予定の児童を対象に実施する。
- ・ 毎年度，8月下旬に実施している。
- ・ 平成20年度は，3日間で27名の相談があった。(1日9名の相談)
- ・ 高齢・障害福祉課，総合支所の市民福祉課の保健師の協力を要請する。
- ・ 1日1名の臨床心理士で実施している。

【 霧島市就学相談会 】

- ・ 現在小，中学校に在籍している児童生徒を中心に実施する。
(来年度入学予定の児童も含む。)
- ・ 毎年度，11月中旬に実施している。
- ・ 平成20年度は，2日間で42名の相談があった。
- ・ 1日5名で実施している。(加治木養護学校，牧之原養護学校，始良小学校から各1名，臨床心理士等2名の計5名)

(イ) 本年の成果

- ・ 就学先に迷う保護者に対して，早期から就学の方向性を示すことができた。
- ・ 教育相談実施後，関係幼稚園，保育所，各総合支所の市民福祉課等との連携が深まり，適切な就学に結び付けることができた。

(ウ) 課題と今後の方針

- ・ 高齢・障害福祉課の発達相談，特別支援学校での相談，療育機関での相談，教育相談施設での相談等関係機関間の情報連携を行いたい。(特に検討に時間を要する相談については，早い段階で情報を共有したい。)
- ・ 特別支援学校，特別支援学級等の就学を検討している就学前幼児の情報を提供してもらうようにする。(今年度は，特別支援学校に入学予定の児童生徒のうち11名中9名が就学前幼児であり，そのうち，4名は未就園であった。)
- ・ 特別支援学校への入学の手続き等で資料作成が必要であり，各園・学校へ記入内容をあらかじめ周知するようにする。

イ 早期支援

(ア) モデル地域内での具体的な取組

【 特別支援教育アドバイザーの巡回訪問 】

- ・ 始良・伊佐教育事務所所属の特別支援教育アドバイザーが行う。
- ・ 7月から3月まで実施している。
- ・ 始良地区の小・中・高等学校，幼稚園に対して実施している。(幼稚園，高等学校については，平成20年度から実施している。)
- ・ 幼稚園や小・中学校の個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成や具体的な支援などについて助言を行う。

【 特別支援学校の巡回相談 】

- ・ 加治木養護学校，牧之原養護学校の特別支援教育コーディネーターが行う。
- ・ 7月から3月まで実施している。
- ・ 始良地区の小・中・高等学校，幼稚園に対して実施している。（幼稚園，高等学校については，平成20年度から実施している。）
- ・ 幼稚園，各学校で特別な教育的配慮が必要な児童生徒への支援の仕方に関する指導助言及び校内研修への指導助言を行う。（具体的に，授業の様子を参観）

【 霧島市教育委員会での対応 】

- ・ 校内研修での指導助言（各学校の特別支援教育の研修での指導助言）
- ・ 霧島市教育委員会での相談（来所による相談）
- ・ 特別支援教育支援員の配置（幼稚園2校，保育園1校，小学校10校，中学校4校計13名）

（イ） 本年の成果

- ・ 特別支援教育アドバイザーの巡回訪問では，特別な教育的配慮が必要な園児の実態把握の方法，特別支援教育コーディネーターの指名，園内委員会の設置などで助言をもらい，特別支援教育の体制づくりを更に推進していくことができた。
- ・ 特別支援学校の巡回相談では，幼稚園の授業参観を通して特別な教育的配慮が必要な園児への具体的な支援について指導をもらい，園での特別支援教育への理解を深めていくことができた。

（ウ） 課題と今後の方針

- ・ 特別支援教育アドバイザーの巡回訪問，特別支援学校の巡回相談は回数に限りがあるため，各学校の特別支援教育コーディネーター等が直接出向いての指導も検討する必要がある。
- ・ 個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成が不十分な学校（園）がある。特に個別の教育支援計画については，関係機関との連携が必要である。
- ・ 保護者への支援が難しい面がある。教育委員会等が窓口になった場合の関係機関への接続を検討する必要がある。

（5） 学校等への円滑な移行方法の工夫（就学相談等を含む）

ア モデル地域内での具体的な取組

（ア） 入学説明会での行動観察について

- ・ モデル園（特別支援教育支援員が配置されている園）から進学していく小学校の入学説明会で行動観察を行うことが可能であるか確認した。（国分西小学校，富隈小学校）
- ・ 国分西小学校，富隈小学校で入学説明会の実施方法等について確認した。それぞれの小学校で独自の実態把握を行っている。

- ・ 2月に国分西小学校，富隈小学校の入学説明会の様子を発達相談専門員が参観し，入学説明会の実施方法等を理解する。今後，この2校の取組を霧島市内，外の小学校等に紹介したい。）
- ・ 国分西小学校，富隈小学校が，それぞれ実施予定の幼保小連携研修会ですこやか支援シート，たんぼぼ通信について説明し，実施について協力を求める。（2月末～3月）

（イ）就学移行支援シートへの接続について（小学校への円滑な移行）

- ・ 就学移行支援シートは，県教育委員会が作成中であり，配布予定のものを霧島市教育委員会で修正して試行している。
- ・ 霧島市教育委員会では，県教育委員会の就学移行支援シートにつながる「たんぼぼ通信」を国分西小学校，富隈小学校へ進学する幼稚園，保育園で活用する予定である。（保護者の理解を得て）
- ・ 進学予定の小学校に引き継ぎ，入学後の児童，保護者への支援につなげる。
※ 夏の入学相談会と霧島市就学相談会などで保護者から同意を得ている児童について作成を行う。

イ 本年の成果

- ・ 発達相談専門員が，入学説明会の実施方法等を確認したり，入学説明会と一緒に加わり行動観察を行うことで入学予定児童の詳細な実態把握を行うことができた。
- ・ それぞれの小学校区の幼・保・小連携研修会に参加することで，行動観察等で気付きな入学予定児童の実態把握ができたり，就学移行支援シート（たんぼぼ通信）の活用に理解が得られ，作成につながる保護者も出てきている。

ウ 課題と今後の方針

- ・ 小学校への円滑な移行ということで福祉部局との連携を図った取組を行ってきたが，連携が難しい部分があった。福祉部局でも保育所への巡回相談等を行っており，霧島市教育委員会が行っている発達相談専門員の巡回相談と並行して行えるように協議を進めていきたい。
- ・ 各小学校では，入学予定児童の実態把握が十分行えていない校区もある。この取組を示しながら，入学説明会，幼保小連絡会の持ち方を工夫できるように取り組んでいきたい。

（6）関連事業等との連携

ア 具体的な取組

【霧島市幼稚園教諭研修会】

- ・ 霧島市の公立，私立幼稚園教諭を対象に行う。
- ・ 毎年，6月と1月に実施している。（平成18年度から毎年開催）

- ・ 平成20年度は、1回目の研修会で鹿児島大学の有倉巳幸准教授を講師として招聘し、幼稚園での特別支援教育の体制づくり（特別支援教育コーディネーターの役割、関係機関との連携など）について助言をもらう。
- ・ 2回目の研修会では、モデル園である陵南幼稚園に発達障害教育指導者研究協議会の報告、園の特別支援教育の取組について発表してもらう。

【霧島市幼稚園、保育園小学校連携研修会】

- ・ 霧島市の公立、私立幼稚園、保育所の教諭、保育士を対象に行う
- ・ 毎年、8月中旬に実施している。（平成18年度から毎年開催）
- ・ 平成20年度は、始良・伊佐教育事務所の栗屋暎海特別支援教育アドバイザーを講師として招聘し、幼稚園、保育所での特別支援教育の体制づくり（特別支援教育コーディネーターの役割、関係機関との連携など）について講話をもらう。

イ 本年の成果

- ・ 特にモデル園を中心として、特別支援教育の体制整備や個別の指導計画の作成など特別支援教育の理解が深まっている園が増えつつある。
- ・ 霧島市幼・保・小連携研修会の旧市町の小学校区での情報交換の中で、園での行動観察等で気掛かりな入学予定児童の実態把握ができ、夏の就学相談会やその後の就学指導につながる事例が出てきており、早期支援につながっている。

ウ 課題と今後の方針

- ・ 発達相談専門員の巡回相談によって、今まで他部局でも行えなかった私立幼稚園に対しても支援が行えるようになった。ただ、幼稚園によって特別支援教育の理解や取組について温度差が見られる。
- ・ 霧島市幼・保・小連携研修会の中では、旧市町の小学校区での特別な教育的配慮が必要な入学予定児童の情報交換の機会を設定されているが、より詳細な実態把握を行うためには小学校区を単位とする幼稚園、保育所との連携研修会を設定する必要がある。